

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

テニスの大坂なおみさんが BNP パリバ・オープンを制する快挙を成し遂げました。世界ランキング元 1 位のマリア・シャラポワ（ロシア）、元 2 位のアグネツカ・ラドバンスカ（ポーランド）、5 位のカロリナ・プリスコバ（チェコ）、そして 1 位のシモナ・ハレプ（ルーマニア）という強豪を破っての優勝で、まさに快挙としか言いようがありませんが、体格や運動能力から見て、一皮むけた印象のある大坂さんは、これからも優勝争いを続けていくような気がします。3 月 18 日に閉会式を迎えた第 12 回冬季パラリンピック平昌大会では、村岡桃佳さんが出場した全 5 種目でメダル（金 1、銀 2、銅 2）を獲得しました。1 大会で 5 個のメダルは、冬季大会で男女を通じて日本選手最多とのこと。冬季オリンピック大会でもそうでしたが、このところ女性選手の活躍が目立つような気がします。

3 月 14 日（水）に山口県生活習慣病検診等管理指導協議会「胃がん・大腸がん部会」が開催され、医師会からは加藤智栄 常任理事が出席しています。また 3 月 16 日（金）には同「肺がん部会」が開催され私が、3 月 19 日（月）には同「子宮がん部会」が開催され、藤野俊夫 監事が出席しました。いつも問題になるのが、山口県のがん検診受診率の低さです。ほとんどが全国の中で下位というより、最下位争いをしている状況です。30 年度からの対策として、特に職域で検診の受診機会のない被扶養者（家族）に対して、協会けんぽと協力して、市町がん検診の周知・啓発を行う事業に対する予算が計上され、30 年度以降のがん検診受診率の向上が期待されるところです。

今年は診療報酬と介護報酬の同時改定の年にあたり、県医師会の担当役員にとっては非常に多忙な 3 月でした。3 月 5 日（月）開催の都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会、3 月 7 日（水）開催の都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会で今回の改定内容の概要についての説明を受け、3 月 15 日（木）開催の都市医師会介護保険担当理事協議会（介護報酬改定に関する伝達説明会）で都市医師会の担当理事に、3 月 16 日（金）から 3 月 27 日（火）にかけて県下 7 市で開催した平成 30 年度診療報酬改定説明会で会員医療機関の方々に、医療保険担当の萬 忠雄 常任理事、藤本俊文 常任理事、清水 暢 理事、舩津浩彦 理事、前川恭子 理事が分担して、今回の改定の要点について説明を行いました。

3 月 17 日（土）に開催された山口大学経済学部シンポジウム（人口減少時代における医療・福祉の未来）に河村康明 会長がパネリストの一人として招待され、講演をしています。経済学部経済学研究科の角田由佳 教授のお世話で開催されたシンポジウムです。他分野の研究者が医療・福祉の分野に関心を持っていただくことは、大変ありがたいことだと思います。

3 月 18 日（日）には、福岡県医師会との懇談会が福岡県医師会のお世話で開催され、在宅医療について協議が行われました。福岡県医師会では在宅医療の現況について独自に調査を行い、2017 年 6 月現在の訪問診療患者数約 3.2 万人、2025 年の需要約 3.9 万人という推計値を出しています。これは国・県の試算値 4.2 万人にほぼ近い数字となっているそうです。ただ、医療圏域別

に見ると、福岡市を中心とした都心部は国の推測値より大きく増えており、患者の流入や医療圏域を越えた訪問診療が相当数あることを示唆しています。今後は患者の住所地ベースではなく、医療機関所在地ベースの調査を経年ごとに実施していく必要があるとまとめていました。山口県医師会からは中国四国厚生局と国・県の推計データを利用して説明を行いました。

3 月 24 日（土）には東京ドームホテルで、**中国四国医師会連合常任委員会及び連絡会**が開催されました。次期日本医師会長の中国四国ブロック推薦とブロック推薦の役員についての協議、同ブロックでの「勤務医特別委員会」の立ち上げについて協議が行われました。

翌日の 3 月 25 日（日）には**第 141 回日本医師会臨時代議員会**が開催されています。会長挨拶の中で横倉義武 日医会長は、役員選挙に次期会長として再出馬する意向を表明するとともに、働き方改革、専門医制度に対する対応の重要性を強調した上で、医師会として積極的に関与していくとして、医療分野における AI、ICT 化に伴うリスクへの対応にも関与していくと述べておられました。代表質問 8 題、個人質問 15 題が提出されましたが、医師の働き方改革に関連した質問が代表質問 2 題と個人質問 2 題、新専門医制度に関する質問が代表質問 2 題、個人質問 1 題、出されています。山口県からは弘山直滋 常任理事が「地域医療構想と救急医療」と題して個人質問を行いました。急性期病床が減少すると、一次及び二次救急を担う中小病院で救急医療を担当する医師の数も減少し、地域における救急医療が崩壊する事態を招きかねないとの趣旨の質問です。詳細については『日医ニュース』をご覧くださいと思います。

3 月 29 日（木）には、当初 1 月 25 日に予定されていて、大雪のために延期となっていた**診療情報提供推進委員会**が開催されました。平成 29 年に県医師会相談窓口で受け付けた 51 件（相談 31 件、苦情 20 件）について、その内容と対応

の説明が行われました。外部の有識者から全体的に適切な対応がなされているとの労いの言葉がありましたが、患者は弱い立場なので、医療機関における接遇、特に受付等では優しい対応が必要との指摘もありました。

今年度も**臨床研修医歓迎会**を 4 月 6 日（金）に ANA クラウンプラザホテル宇部で開催しました。今年の 4 月から山口県で臨床研修を受けることとなった研修医 88 名と、山口県から健康福祉部 2 名、山口県内の臨床研修指定病院の病院長と指導医 58 名、山口県医師会の役職員 8 名が参加しました。他の都道府県でも同様の催しが行われていますが、山口県では新臨床研修制度がスタートした当初から実施しており、この歓迎会が研修医の県内定着につながれば幸いです。

4 月 7 日（土）に開催された**保険指導の状況及び対応セミナー**には県内の医療機関から多数の医師、医療事務職員が参加されました。下松市と下関市豊北町阿川で幼少期を過ごしたという松本吉郎 日医常任理事をお招きして、特別講演「中医協（診療報酬改定）の状況について」を行っていただきました。今回の診療報酬改定にあたっての中医協でのやりとり、とくに「かかりつけ機能の評価」と「オンライン診療」に関した議論についてかなり突っ込んだ解説があり、地域包括診療加算が 1 と 2 に分けられ、2 は施設基準がかなりクリアしやすくなっている、是非多くの診療所に取ってほしいとの話でした。また、小児科診療所の場合、小児かかりつけ診療料の届出をさせていただくと、初診時に機能強化加算（80 点）を算定できるので、是非考慮していただきたいとお話もありました。特別講演の前には、本会の清水理事が山口県における保険指導・監査の実施状況と、個別指導での指摘事項について解説を行い、カルテ記載の重要性について改めて注意喚起し、萬 常任理事が、山口県における監査の実施例と、監査になるのを事前に防止するために行っているピア・レビューについて説明しました。このような形のピア・レビューを行っているのは全国では山口県医師会だけです。

ロンドンで夏に開催される「プロムス」コンサートの最終夜のアンコールで、恒例として毎年必ず演奏されるのが作曲家エルガーが「威風堂々 第 1 番」のメロディーの一部を転用し、イギリス国王エドワード 7 世のために書いた「希望と栄光の国」です。同じように毎年、元日にウィーンで開催される「ニューイヤーコンサート」のアンコールとして演奏されるのは、ヨハン・シュトラウス 2 世の「美しき青きドナウ」です。これらの曲は第 2 の国歌とも呼ばれています。イタリアではヴェルディ作曲の歌劇「ナブッコ」の中で歌われる合唱曲「行け、我が想いよ 金色の翼に乗って」が第 2 の国歌といわれています。1842 年 3 月 9 日のミラノ・スカラ座初演の時、聴衆は、当時オーストリアに支配されていた自分たちの境遇を、強制労働を強いられているヘブライ人の姿に重ね合わせ、合唱と共に立ち上がって一緒に歌ったといわれています。帝政ロシアの圧政に苦しめられていた時期に作曲されたシベリウスの「フィンランディア」の中の賛歌風の旋律も、「フィンランディア賛歌」として第 2 の国歌となっています。

スメタナ (1824 ~ 1884) の命日である 5 月 12 日に開催される「プラハの春」音楽祭は、第二次世界大戦が終了し、チェコがナチスから解放された翌年の、チェコ・フィル創設 50 周年に当たる 1946 年に、首席指揮者ラファエル・クーベリックの指導のもとに始まりました。毎年、初日の開幕公演では、スメタナの傑作「わが祖国」全曲が必ず演奏されます。「わが祖国」は 6 つの交響詩からなる連作交響詩で、第 2 曲「ヴルタヴァ (モルダウ)」はしばしばアンコール曲としても演奏されるので、耳にした方も多いと思います。6

曲の内容について詳述するのは避けませんが、ボヘミアの美しい自然とそこに生活する人々の営みを描写する音楽と、激しい戦闘場面を思わせる音楽、とにかく聴きすすむにつれ次第に気持ちが高揚し、熱くなってきます。最終曲「ブラニーク」は希望に満ちた未来を暗示しながら、勇壮なクライマックスをもって曲を閉じます。人々を奮い立たせるという意味では「フィンランディア」とよく似た感じがします。

この曲はチェコ出身の指揮者、例えば、ターリヒ、アンチェル、クーベリックやノイマンなどによる、チェコの愛国心を看板に掲げた民族色豊かな名演が評判が高く、私も全く同感です。私が初めて手にした「わが祖国」はターリヒ指揮チェコ・フィルの LP です。とても熱い演奏で、私の中では今でも No.1 です。アーノンクールがウィーン・フィルとこの曲の録音を残しています。祖母がチェコ人という彼の演奏は、チェコの民族色はひとまず横に置いておいて、同曲を純粋な交響詩として、もっぱら純音楽的なアプローチを心掛けているようです。たぶん立派な演奏で、このような演奏が好きだという方もおられると思いますが、私には少し物足りない感じがします。ビロード革命による民主化直後の 1990 年には、1948 年のチェコスロバキア共産党政権の成立による共産化を嫌って、西側へ亡命していたクーベリックが、「プラハの春」のオープニングをチェコ・フィルとの歴史的な再共演で飾っています。その超モニュメント的演奏も CD として発売されています。これも骨太で豪快、気迫に満ち溢れた素晴らしい演奏です。



医業継承・医療連携
医師転職支援システム

〈登録無料・秘密厳守〉

後継体制は万全ですか？

DtoDは後継者でお悩みの
開業医を支援するシステムです。
まずご相談ください。



お問い合わせ先

0120-337-613
受付時間 9:00~18:00(平日)



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社
www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

山口支店／山口市小郡高砂町1番8号 MY小郡ビル6階
TEL(083)974-0341 FAX(083)974-0342
本社／福岡市中央区天神
■国土交通大臣免許(2)第6343号 ■厚生労働大臣許可番号40-ユ010064